

中学校第 3 学年

国語 A

注意

- 1 先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。
- 2 調査問題は、1 ページから 28 ページまであります。問題用紙の空いている場所は、下書きや計算などに使用しても構いません。
- 3 解答は、全て「国語 A」の解答用紙に記入してください。
- 4 解答は、HB または B の黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、**濃く、はっきりと書いてください。**
- 5 解答を選択肢から選ぶ問題は、解答用紙のマーク欄を黒く塗り潰してください。
- 6 解答を記述する問題は、指示された解答欄に記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。
- 7 解答用紙の解答欄は、裏にもあります。
- 8 調査時間は、45 分間です。
- 9 「国語 A」の解答用紙に、組、整理番号、性別を記入し、マーク欄を黒く塗り潰してください。

問題は、次のページから始まります。

1

山田さんは、「生活面や学習面で頑張りたいこと」というテーマでスピーチをしました。次は、山田さんの【スピーチ】と、それを聞いたあとの【村井さんの感想】と【清水さんの感想】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【スピーチ】

私が頑張りたいと思っていることは、英語の勉強です。

先日バス停で、外国の方に“Excuse me.”と話しかけられ、英語で駅までの道順を尋ねられました。私は英語が苦手なので、一瞬、その場から逃げ出したい気持ちになりました。しかし、きちんと伝えなければ相手が困るだろうと考え、授業で道案内について学習したことを思い出しながら、go や turn などの単語を使い、身振り手振りを交えて説明しました。時間がかかりましたが、何とか駅までの道順を伝えることができました。最後に“Thank you.”と言われたので、“You're welcome.”と答えたら、相手は笑顔で手を振りながら駅に向かっていきました。自分の話した英語が外国の方に伝わってとてもうれしく思いました。決して上手な話し方ではなかったかもしれませんが、今まで学んできたことが実際の場面で役に立ってよかったです。

それ以来、私はもっと他の場面でも英語を使ってみたいと思うようになりました。これからは、実際に使う場面を考えながら、英語の勉強を頑張っていきたいと思います。



山田さん

【村井さんの感想】

山田さんが具体的な経験を詳しく話してくれたので、なぜ英語を頑張りたいのかがとてもよく分かりました。私も英語で道順を尋ねられたことがあります。私の場合、相手の行きたい場所は分かりましたが、そこまでの道順を英語でどのように説明すればよいか分からず、何も言えませんでした。だから、山田さんが英語で道案内ができたということを知り、うらやましく思いました。私も、これからは、山田さんと同じように実際に使う場面を考えながら、英語を勉強していきたいです。

【清水さんの感想】

スピーチの始めに自分が頑張りたいことを話し、次になぜ頑張りたいのかを経験をもとに話していたので、説得力がありました。また、最後に何を頑張りたいのかをもう一度述べていたので、山田さんの英語の勉強に対する思いが強く印象に残りました。自分が伝えたいことを繰り返し述べるような話の組み立て方は効果的だと思いました。

一 【村井さんの感想】と【清水さんの感想】に対して先生が述べた言葉として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 1 山田さんの言葉遣いや語句の選び方が適切かどうかを考えることができますね。
- 2 山田さんの言葉の調子や間の取り方、話す速度に着目することができますね。
- 3 山田さんの考えと自分の考えとを比べて、質問したい内容を見付けることができますね。
- 4 山田さんの経験に着目し、自分の経験と結び付けて話の内容に共感することができますね。
- 5 山田さんのスピーチの構成がどのように工夫されているのかを考えることができますね。

図書だより

第一中学校図書委員会

電子書籍を読んでみませんか？

○ 電子書籍とは？

パソコンの画面などで読むことができる電子化された書籍のことです。



○ 電子書籍を読むには？

家にパソコンなどがなくても、市立図書館に行くと読むことができます。ぜひ一度、体験してみませんか。

A

○ おすすめの電子書籍は？

『私たちの町の歴史』という本をおすすめします。私たちの暮らす地域がどのように発展してきたかが紹介されています。

○ 利用の仕方を詳しく知るには？

電子書籍の利用の仕方を詳しく書いたパンフレットが学校図書館にあります。興味がある人は学校図書館に来てください。

2

次は、図書委員の鈴木さんが書いた【図書だよりの下書き】と、それを読んだ他の図書委員から出された【意見1】と【意見2】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【図書だよりの下書き】

【意見1】

市立図書館のパソコンを利用するには、受付で申し込めばよいことを伝えよう。

【意見2】

市立図書館のパソコンは、数に限りがあることも書いておくとよい。

一 【図書だよりの下書き】の構成を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 伝えたいことを、重要なものから順に番号を付けて箇条書きで書いている。
- 2 伝えたいことを、問いとそれに答える形で複数の項目を設けて書いている。
- 3 伝えたいことを、項目を設けずに始めから終わりまでひとまとまりの文章で書いている。
- 4 伝えたいことを、見出しを付けずに複数の段落を設けて書いている。

二 鈴木さんは、【図書だよりの下書き】の A の部分に、【意見1】と【意見2】の両方の内容を一文で書き加えることにしました。次の□に当てはまる言葉を、「なお、市立図書館では、」に続けて、三十字以内で書きなさい。

なお、市立図書館では、

問題は、次のページに続きます。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまでのあらすじ」 七歳の保吉は父親と玩具屋を訪れ、店主から幻灯の映し方（ガラス板の画を光でスクリーンに映す機械の使い方）を聞いている。

「あのぼんやりしているのはレンズのピントを合わせさえすれば——この前にあるレンズですな。——すぐにごらんとおり、はつきりなります。」

主人はもう一度および腰になった。と同時にしゃぼんだまはみるみる一枚の風景画に変わった。もつとも日本の風景画ではない。水路の両側に家々のそびえた、どこか西洋の風景画である。時刻はもう日の暮れに近いころであろう。三日月は右手の家々の空にかすかに光を放っている。その三日月も、家々も、家々の窓の薔薇の花も、ひっそりとたたえた水の上へ鮮やかに影を落としている。人影はもちろん、見わたしたところかもめ一羽浮かんでいない。水はただ突き当たりの橋の下へまっすぐにひとすじつづいてる。

「イタリアのベニス(注1)の風景でございます。」

三十年後の保吉にヴェネチアの魅力を教えたのはタンヌチオ(注2)の小説である。けれども当時の保吉は、この家々だの水路だのにただたよりのない寂しさを感じた。彼の愛する風景は、大きい丹塗りの観音堂の前に無数の鳩(注3)の飛ぶ浅草である。あるいはまた高い時計台の下に鉄道馬車の通る銀座である。それらの風景に比べると、この家々だの水路だのは、なんとという寂しさに満ちているのである。鉄道馬車や鳩は見えなくてもよい。せめてはむこうの橋の上に一列の汽車でも通っていたら、——ちようどこう思ったとたん

イラスト

参考 〈幻灯〉

である。大きいリボンをした少女が一人、右手に並んだ窓の一つから突然小さい顔を出した。どの窓かははっきり覚えていない。しかしだいたい三日月の下の窓だったことだけはたしかである。少女は顔を出したと思うと、さらにその顔をこちらへむけた。それから——遠目にも愛くるしい顔に疑う余地のないほほえみを浮かべた！^①が、それは掛け価のない一、二秒の間のできごとである。思わず「おや」と目を見はつた時には、少女はもういつの間にか窓の中へ姿を隠したのであろう。窓はどの窓も同じように人気のない窓かけを垂らしている。……

「さあ、もう映しかたはわかつたろう？」

父の言葉はぼうぜんとした彼を現実の世界へ呼びもどした。父は葉巻をくわえたまま、退屈そうに後ろにたたずんでいる。玩具屋の外の往来もあいかわらず人通りを絶たないらしい。主人も——きれいに髪を分けた主人は小手調べをすませた手品師のように、妙に蒼白い頬のあたりへ満足の微笑をただよわせている。保吉は急にこの幻灯を一刻も早く彼の部屋へ持って帰りたいと思いだした。……

保吉はその晩父といっしょに蠟ろうを引いた布の上へ、もう一度ヴェネチアの風景を映した。中空の三日月、両側の家々、家々の窓の薔薇の花を映したひとすじの水路の水の光、——それは皆前に見たとおりである。が、あの愛くるしい少女だけはどうしたのか今度は顔を出さない。窓という窓はいつまで待っても、だらりと下がった窓かけの後ろに家々の秘密を封じている。保吉はどうとう待ち遠しさにたえかね、ランプの具合などを気にしていた父へ注歎願たんがんするように話しかけた。

「あの女の子はどうして出ないの？」

「女の子？ どこかに女の子がいるのかい？」

父は保吉の問いの意味さえ、はっきりわからない様子である。

「ううん、いはしなくても、顔だけ窓から出したじゃないの？」

「ううん？」

「玩具屋の壁へ映した時に。」

「あの時も女の子なんぞは出やしないさ。」

「だって顔を出したのが見えただもの。」

「何を言っている？」

父はなんと思ったか保吉の額へ手のひらをやった。それから急に保吉にもつけ景気(注5)とわかる大声を出した。

② 「さあ、今度は何を映そう？」

けれども保吉は耳にもかけず、ヴェネチアの風景をながめつづけた。窓は薄明るい水路の水に静かな窓かけを映している。しかしつかはどこの窓から、大きいリボンをした少女が一人、突然顔を出さぬものでもない。——彼はこう考えると、名状(注6)のできぬなつかしさを感じた。同時に従来知らなかった、あるうれしい悲しさをも感じた。あの画の幻灯の中にちらりと顔を出した少女は、じつさい何か超自然の霊が彼の目に姿を現あわしたのであるだろうか？ あるいはまた少年に起こりやすい幻覚の一種にすぎなかったのだろうか？ それはもちろん彼自身にも解決できないのにちがいない。

あくたがわりゅうのすけ
(芥川龍之介「少年」による。)

(注1) ベニス＝ヴェネチア。イタリア北東部に位置する都市。「水の都」の別名をもつ。

(注2) ダンヌンチオ＝イタリアの詩人、小説家、劇作家。

(注3) 丹塗り＝赤または朱色に塗ってあること。また、塗ってあるもの。

(注4) 歎願＝事情を述べて熱心に願うこと。

(注5) つけ景気＝実際はそうではないのに景気がよいように見せかけること。

(注6) 名状のできぬ＝言葉で言い表すことができない。

— 線部① 「それは掛け値のない一、二秒の間のできごとである」とありますが、「掛け値」はこの場合、物事を大げさに言うことを意味します。この部分についての説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 少女の映っていた時間が、ほんのわずかな間のできごとであったということ。
- 2 少女の映っていた時間が、ずいぶんと長い間のできごとであったということ。
- 3 ヴェネチアの風景の映っていた時間が、ほんのわずかな間のできごとであったということ。
- 4 ヴェネチアの風景の映っていた時間が、ずいぶんと長い間のできごとであったということ。

— 線部② 「『さあ、今度は何を映そう？』けれども保吉は耳にもかけず、ヴェネチアの風景をながめつづけた。」とありますが、この場面についての説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 父は保吉に幻灯を映すように促したが、保吉はヴェネチアの静かな風景がとても気に入ったので父の発言に答えずにいる。
- 2 父はヴェネチアの風景の映り具合を気にしたが、保吉は自分が愛する浅草や銀座の風景の映り具合を気にしている。
- 3 父は他の画を映し出すことを提案したが、保吉は少女がもう一度幻灯の画に現れるのではないかと考えている。
- 4 父は少女が映っている画が他にもないか探そうとしたが、保吉は少女が再び現れることはないか諦めている。

4

田中さんは、「日本の食文化」というテーマで意見文を書いています。次は、田中さんが書いた【意見文の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(1から4は、段落の番号を表します。)

【意見文の下書き】

- ① 日本で昔から親しまれてきた緑茶。例えば、「日常茶飯事」という言葉があるが、この言葉は「日常のありふれたこと」という意味で使う。このように緑茶は、日本では人々にとって生活そのものと深く結び付いた存在である。その緑茶の人気は海外で高まっているという。
- ② 私たちの身の回りを見てみると、緑茶は家の中だけでなく屋外でも飲まれることが多くなった。また、和菓子だけでなく、アイスクリームやチョコレートなどの洋菓子里に緑茶が使われることも多くなった。お店で見かける緑茶を使った商品の種類は年々増えてきていて、日本でもその人気が高まってきているように感じる。
- ③ 財務省の平成二十八年の貿易統計によると、十年前と比べ、緑茶の海外への輸出量は二倍以上、輸出額は三倍以上になっている。また農林水産省のウェブページには、「世界的な健康志向の高まりから、各国における緑茶の需要が増加」と書かれている。これらのことは、海外で緑茶の人気が高まっていることの裏付けと言える。
- ④ 昔から親しまれ、様々な食品に用いられるようになってきた緑茶が、海外でも注目されている。私は、緑茶の食品としてのよさだけでなく、私たちの生活そのものと深く結び付いていることも海外の人に理解してほしい。そのため、まず私自身が緑茶についてもっとよく調べて理解を深めたい。緑茶の他にも、私たちの身の回りには、生活そのものと深く結び付いた食品がきつとあるはずだ。皆さんもこのことに目を向け、改めて日本の食文化について見つめ直してはどうだろうか。

一 田中さんは、【意見文の下書き】の < のところに次の一文を書き加えることにしました。その意図として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

また、家族が集まって食事をしたり、団らんしたりする部屋のことを「茶の間」と呼ぶこともある。

- 1 新たな説明を加え、読み手が言葉の辞書的な意味を正しく捉えられるようにする。
- 2 新たな疑問を加え、書いてある内容について読み手が主体的に考えられるようにする。
- 3 別の意見を加え、読み手が自分の意見との違いを明らかにできるようにする。
- 4 別の具体例を加え、伝えたい内容が読み手により説得力をもって伝わるようにする。

二 田中さんは、読み手が理解しやすいように【意見文の下書き】の②段落と③段落の内容を入れ替えて書き直すことにしました。その理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 ①段落で述べた事柄に対して、自分の意見を直後に示す方が読み手が理解しやすいと考えたから。
- 2 ①段落で述べた事柄に対して、根拠となる事実を直後に示す方が読み手が理解しやすいと考えたから。
- 3 ④段落で述べる事柄に対して、他の人の意見を直前に示す方が読み手が理解しやすいと考えたから。
- 4 ④段落で述べる事柄に対して、予想される反論を直前に示す方が読み手が理解しやすいと考えたから。

5

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1から8は、段落の番号を表します。)

(紙の機能研究会『おもしろサイエンス 紙の科学』による。)

(紙の機能研究会『おもしろサイエンス 紙の科学』による。)

(紙の機能研究会『おもしろサイエンス 紙の科学』による。)

一 ⑥段落について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 ①段落から⑤段落までと異なる新たな内容を示し、新聞紙の製造方法の具体的な例について述べている。
- 2 ①段落で提起された問題への答えとなる情報を示し、新聞紙の活用の具体的な例について述べている。
- 3 ⑤段落で記された内容を否定し、新聞紙の新たな利用の仕方について自分の考えを述べている。
- 4 ②段落から⑤段落までの内容をもとに、日本の新聞紙の製造技術について自分の考えを述べている。

二 【新聞紙の製造工程】の㉞「泡にインクや異物を吸着させて取り除く」は、どの製造工程に当たりますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 離解工程
- 2 粗選工程
- 3 脱墨工程
- 4 脱水工程

問題は、次のページに続きます。

6

谷さんの学級では、バスの座席の決め方について話し合っています。次は、【話し合いの一部】と司会の谷さんがとっている【メモの一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合いの一部】

谷 この時間は、来月行われる遠足のときに乗るバスの座席の決め方について話し合います。どのように座席を決めればよいかについて意見を出してください。意見を述べる際には、その方法がよいと考える理由も言ってください。

山下 私はくじ引きがよいと思います。くじ引きは公平で、決めるのに時間がかからないからです。

横井 ふだん一緒に活動しているグループでまとまって座るのがよいと思います。その方が時間がかかりません。

黒川 私は、自分が座りたい場所の希望を出して、重なったら相談して決めればよいと思います。

平野 私はまず、仲のよい人同士でグループを作って、どの辺りにまとまって座るのかをくじ引きで決めるのがよいと思います。仲のよい人と近い席だったら、バスの中が明るい雰囲気になります。

中山 平野さんの方法だと、仲のよい人たちだけが近くの座席になって、学級全体での交流が少なくなってしまうのではないのでしょうか。

横井 中山さんの意見についてですが、バスの中で全員が参加できるレクリエーションを考えれば、交流については問題ないと思います。

高田 バスの中でクイズ大会を行うのはどうでしょうか。クイズなら、学級の全員が楽しめると思います。

谷 レクリエーションについては、するかしないかも含めて、あとで話し合うことにしましょう。他に意見がある人はいますか。

木村 私は、座席を担任の先生に決めてもらうのが一番よいと思うのですが、どうでしょうか。

【メモの一部】

	〈方法〉	〈理由〉
・山下さん	くじ引き	公平 時間がかからない
・横井さん	グループごと	時間がかからない
・黒川さん	座りたい場所 重なったら相談	
・平野さん	仲のよい人のグループ 場所はくじ引き	明るくなる
・木村さん	先生が決める	

谷
木村さんは、
いろいろな意見が出たので一度まとめたと思いますが、その前に確認したいことがあります。黒川さんと

一 谷さんは、どのように【メモの一部】を書いていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 話し合いの目的に沿った発言に絞り、話の内容を短くまとめて書いている。
- 2 話し合いの目的からそれた発言も取り上げ、全て話したとおりに書いている。
- 3 話し合いの目的に沿った発言から、あとで質問したい内容を選んで書いている。
- 4 話し合いの目的からそれた発言も取り上げ、誰の発言かが分かるように書いている。

二 谷さんは、【メモの一部】を見て、黒川さんと木村さんに確認しなければならないことがあることに気付きました。【話し合いの

一部】の□で、谷さんはどのような発言をするとよいですか。「黒川さんと木村さんは、」に続けて、実際に話すように書きなさい。

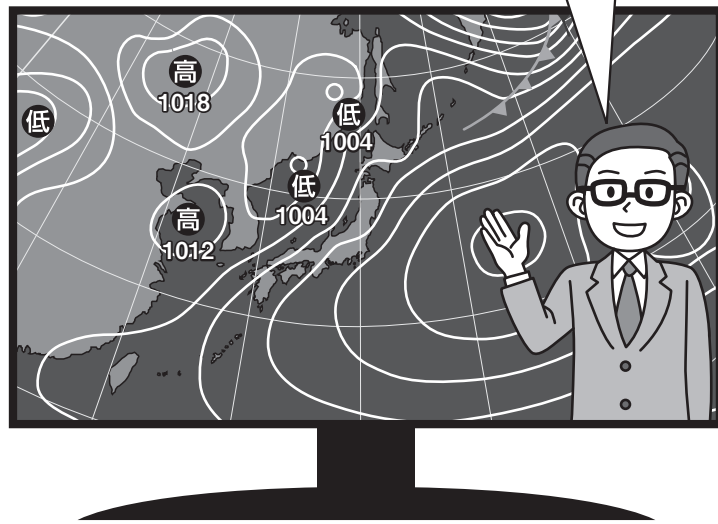
問題は、次のページに続きます。

7

次は、高橋さんが見ているテレビの【天気予報】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【天気予報】

こんばんは。春らしい陽気が続く中、桜の開花に合わせてお花見をする人が増えていますが、今夜は所により強い風が吹くことが予想されます。そのため、明日は場所によってはハナイカダが見られるでしょう。それでは、^①各地の天気をお伝えします。



高橋さんは、【天気予報】の——線部①「ハナイカダ」という言葉を聞き、どのようなものかを電子辞書で調べています。——線部①「ハナイカダ」の意味として最も適切なものを、次の【電子辞書】の①から④までの中から一つ選びなさい。

【電子辞書】

はな-いかだ【花筏】〔名〕

- ① ミズキ科に属する落葉低木の名前。葉の真ん中に花が咲く。
- ② 紋所もんどころの名。いかだに花を取り合わせた図柄のもの。
- ③ 散った桜の花びらが水面に浮き，連なって流れていく様子。
- ④ 白粉おしろいのつきや伸びをよくするために用いる油性香料の名。

二 高橋さんは、【天気予報】の——線部②「それでは」がどのような働きをしているのかについて考えています。——線部②「それでは」の働きとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 前に述べたことを受けて自分の意見につなぐ働き。
- 2 前に述べたことを切り替えて次の話題につなぐ働き。
- 3 前に述べたこととは反対のことにつなぐ働き。
- 4 前に述べたことを言い換える言葉につなぐ働き。

8

次の一から六までの各問いに答えなさい。

一 次の1から3までの文中の——線部のカタカナを漢字に直し、楷書かいしよでていねいに書きなさい。

- 1 紙をひもでタバねる。
- 2 舞台のマクマクが上がる。
- 3 先制点をユルユルす。

二 次の1から3までの文中の——線部の漢字の正しい読みをひらがなでていねいに書きなさい。

- 1 模型モデルを作る。
- 2 池の水が凍こる。
- 3 技を磨こぐ。

三 次のアからキの文では、() の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

ア 立場の異なる両者の主張は(1 臨機応変 2 終始一貫 3 先手必勝 4 共存共栄)して変わらず、最後まで結論が出なかった。

イ 魚の中には群れを作って泳ぐ(1 習性 2 修正 3 集成 4 終成)をもつものがある。

ウ 先生が私たちに大切なことを(1 申し上げた 2 申した 3 お言いました 4 おっしゃった)。

エ 彼は(1 水気 2 せき 3 紙 4 くう)を切ったように話し始めた。

オ 意見の折り合いを(1 たてる 2 かける 3 つける 4 なする)。

カ わたしが健康になったのは、(1 ひとえに 2 ほのかに 3 いちずに 4 むやみに)母のおかげです。

キ 姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。(1 もしくは 2 いわば 3 要するに 4 一方)、妹は一人で本を読むことが好きだ。

四 次の各問いに答えなさい。

- 1 次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

心を打たれる

- 1 遠慮する。
- 2 感動する。
- 3 一つのこと集中する。
- 4 あれこれと心配する。

- 2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

五 書写の時間に、行書で「野花」という文字を書いた松田さんは、【作品】をよりよくするためにグループで助言し合っています。
この【作品】への助言として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

【作品】



- 1 ㊦の部分は筆脈を意識して、次の画へのつながりが分かるように書きましょう。
- 2 ㊩の部分は文字の全体の大きさに気を付けて、偏へんよりも小さく書きましょう。
- 3 ㊷の部分は点画を省略せずに、楷書かいしょで書くときの筆順どおりに横画を最初に書きましょう。
- 4 ㊱の部分は左下に向けて払い、次の字につながるように書きましょう。

六 次は、中国の『韓非子』という本にある話【A】と、その現代語訳【B】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

(竹内照夫『新釈漢文大系 第12巻 韓非子(下)』による。)

(竹内照夫『新釈漢文大系 第12巻 韓非子(下)』による。)

【B】

楚の国の人で、盾と矛とを売る者がいた。その盾をほめて言うには、「わたしの盾の堅いことといたら、突き通せるものはない。」と。また、その矛をほめて言うには、「わたしの矛の鋭いことといたら、どんなものでも突き通さないことはない。」と。ある人が言うには、「あなたの矛で、あなたの盾を突き通したらどうなるか。」と。その人は答えることができなかった。

1 — 線部「いはく」の意味を【B】の中から抜き出しなさい。

2 〰〰線部「とほざざるなし」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

3 【A】の話から、つじつまが合わないという意味の「矛盾」という言葉が生まれました。この話の中で矛盾していることとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 楚の国の人は、矛の鋭さと盾の堅さという長所を示しているのに、ある人は矛と盾の短所について質問したこと。
- 2 楚の国の人は、自分が持ってきた盾の堅さをほめているのに、ある人は楚の国の人が持っている矛の鋭さをほめたこと。
- 3 楚の国の人が、矛と盾という異なる使用目的をもった道具を売るために、それぞれの材料について説明したこと。
- 4 楚の国の人が、自分が売っている盾と矛について、何も突き通させない盾とどのようなものも突き通せる矛だと言ったこと。

